

関連項目：教育活動プラン③

あ (かるく) い (つでも) さ (きに) つ (づける) 運動

目的

本校の児童は、素直で何事にも真摯に取り組むことができるが、主体性が乏しく自分からは進んで場に応じたあいさつができていなかった。そこで、いろんな場所・場面で時に応じたあいさつができるようにしたいと考え、あいさつを1年間の生徒指導の中心に据えた。

内容

● **あいさつの大切さを考え、話し合う。**

4月の全校集会であいさつがどうして大切なのか、意義を話し合い確認し合った。

● **学期に2回あいさつを月目標に掲げ、意識づけの機会を増やす。**

① 学年団で朝のあいさつ運動

自分から先にあいさつができるようになることを目的に、全学年が登校時刻に一回は玄関に立ち、全校生にあいさつを呼びかけた。

たすきをつけることで意識を高めた。

② 生活交通委員会の児童がスタンプ運動

生活交通委員会の児童が各学年の教室の前に立ち、大きな声であいさつができた児童にスタンプを押し、あいさつの声の大きさを自覚できるようにした。そして、多くの児童ができているクラスを表彰した。

③ あいさつ強調週間

あいさつ月間中の1週間、友達・家の人・地域の人にあいさつができたかどうかを調べ、よくできていたクラスを表彰した。

特に1学期は学校の友達や先生を中心にし、2学期は地域の人にもあいさつの和を広げ、3学期は年末やお正月もあったので、家庭や地域を含む社会を意識して行えるように呼びかけた。



● **靴置き場にポスターを掲示する。**

校長先生の全校生への呼びかけをきっかけに「あいさつ」の「あ」は、「明るい声」、「い」は「いつでも」、「さ」は「相手より先に」、「つ」は「続けよう」と言う言葉を合い言葉にして靴置き場に掲示し、毎日児童が見て意識できるようにした。



● **全校集団下校時のあいさつを大きな声でする。**

週一回の全校集団下校の時、校長先生に対するあいさつの声が小さかったので、生活交通委員会の児童が率先して大きな声を出し全校の模範になれるようにした。

成果

- ・学期に2回、月目標であいさつを取り上げたことで、受け身のあいさつから、自分から進んでするあいさつに変わってきた。
- ・児童の意識調査で、1学期に比べあいさつを意識するようになった児童が増加した。
(全校10クラス中8クラスの児童が向上を意識していた。)
- ・登下校中、車が道を譲ってくれると会釈をしてお礼をする児童がみられるようになった。
- ・運動期間中、啓発した時はたいへん元気なあいさつが学校中にひびいていた。これからの課題としては、運動期間中のあいさつの高まりを継続していけることである。